

# 公共住宅における高齢者福祉サービスの連携に関する研究

担 当 部 科 居住科学部住生活科

## 研究の目的

本研究は、公営住宅における高齢者の安定居住を実現するため、地域の高齢者福祉サービスと連携した公営住宅整備方を明らかにすることを目的としています。今年度は特にシルバーハウジング（SH）を中心に検討を進めました。

## 研究概要

今年度は、道内 SH を対象に LSA 及び団地管理者に対するアンケートおよび現地調査、また市町村福祉部局による在宅高齢者を対象とした緊急通報事業・見まわり事業に関するアンケート等を実施しました。その結果、現在 SH では生活援助員の従来の役割が在宅介護サービスの充実に伴い小さくなっていることや、利用されていない団らん室が発生するといった課題とともに、今後は、入居者コミュニティの支援が重要であることなどを明らかにしました。さらに公営住宅団地への福祉施設併設による連携とあわせて、高齢者福祉サービスの効率的・効果的な連携方策について取りまとめました。

### 道内シルバーハウジングの現況

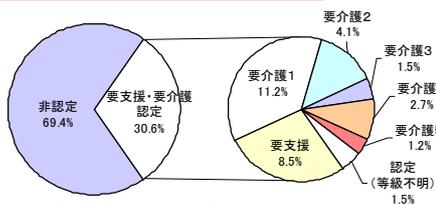


図1 SH入居者の要支援・要介護認定状況

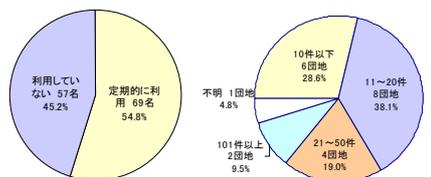


図2 要介護者の訪問サービス利用状況

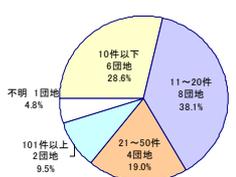


図3 LSAによる安否確認

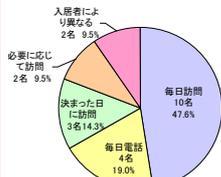


図4 団らん室利用実績 (LSA主催行事:H14年度)

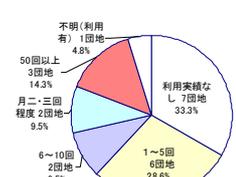


図5 緊急通報発報件数 (H14年度)



団らん室: 入居者コミュニティへのLSAの日常的な関わりや施錠等の管理方法により利用状況が異なる(左:日常的に利用、右:ほとんど利用されない)

### 今後の展開方策

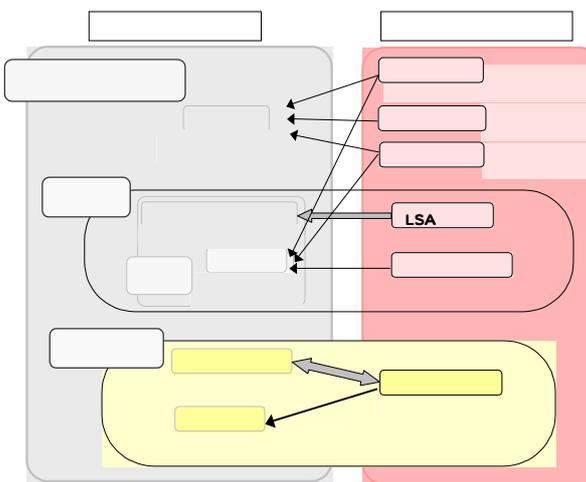


図6 高齢者福祉サービスと連携した公営住宅の計画・供給

## 活用方法・成果

本研究の成果は、今年度策定される北海道公営住宅等安心居住推進方針に反映されるとともに、本年度事業計画を策定した道営美幌新町団地 SH プロジェクトなど道営住宅の具体的事業において展開される予定です。市町村の公営住宅でも SH での推進に活用してください。